

# 『秋田魁新報』 文芸関係記事年表稿 昭和篇 1

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-03<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 森, 英一<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/2297/376">http://hdl.handle.net/2297/376</a>                            |

## 『秋田魁新報』文芸関係記事年表稿 (昭和篇①)

森 英一

The Chronological Table of Literary Report in Akita Sakigake News (Syowa No. 1)

Eichi Mori

この年表は本紀要第三十号(昭和56・9刊)の『秋田魁新報』文芸関係記事年表稿(大正篇)を承けるものである。調査に際しては秋田県立図書館所蔵のマイクロフィルムを使用した。

## 昭和二年

- 1 「連俳談」 鳴田五空  
 「秋山君と手紙」或架空的性格の粗描 柿沼不泣 5日  
 5 回完
- 2 「諒闇」(☆短歌9首) 若山牧水  
 「戸蒔甲斐守と仙乏古図」最上義亮伊達政宗との交渉其他 後藤宙外 7日 4回完
- 3 「秘密」(☆翻案) 小杉扶美子 5日完  
 「歌壇駄言」 中村徳也 6日完
- 4 「冬日詠」(☆短歌10首) 谷沢林之助  
 「ワルト、ホイットマン」 梁歩吟客訳 7日完
- 5 「截紙刀」 星野つゆを 7日完  
 「甲旗」(☆短歌5首) 鷺尾よし子
- 6 「病ひ癒えて」(☆短歌20首) 鷺尾よし子  
 「文芸と人生」 菊地寛
- 7 小説「薔薇色の頬」 小島かはたれ  
 「新興文芸に就いて」 川崎長太郎 14日 3日完  
 「クリステイアーヌ」モーパッサン 国本善治訳
- 8 「内藤鳴雪翁の句集を読む」 安藤歯舟 25日 8回完  
 「善魔悪魔」 国安桂水 2・6 19回完
- 9 「郊外新居」(☆短歌10首) 藤田豪之輔  
 詩「酔人の村」 川崎定造
- 10 「黒髪」(☆短歌13首) 伊藤新一  
 「折々の歌」(☆短歌8首) 高橋弥三郎
- 11 「汽車通勤詠草」(☆短歌17首) 中川化生  
 「あき」(☆短歌12首) 武田武雄
- 12 「浜の秋」(☆短歌8首) 石田勝郎  
 「温度表」(☆短歌5首) 村越千一
- 13 童話「不思議な婆さん」 関清瀾 24日 5回完  
 「文芸の秋田」 発刊を前に 相川雪之輔  
 詩「雲煙秘抄」 阿部たつを

- 23 「奉悼歌」（☆短歌12首）寺田寅雄  
 25 「新劇時代」村上知義 26日完  
 26 「『文芸の秋田』を見る」藤沢欣一郎  
 「県文壇時評」小浜亮二 27日完  
 詩「貝殻の生活」渥美不二雄  
 「十九の秋」（☆短歌9首）小島磯子  
 「秋窓雑詠」（☆短歌7首）雄川露風  
 27 「山莊雜記」忍怒濤 2・9 9回完  
 28 詩「島の朝」小林恒二  
 詩「旅人よ」矢嶋潤一  
 詩「劍舞」岩井川石五郎  
 「隔世の感深き明治初期の雑誌」記者  
 29 詩「郷愁」小山直幹  
 詩「冷めたき心」武田亞公  
 「汽車通勤詠章」（☆短歌15首）中川化生  
 30 「港の一夜」（☆短歌13首）高橋慶太郎  
 「雜詠」（☆短歌10首）栗林久司  
 21 「幕末情史俠艶地獄」森下金馬 3・1・22 339回完  
 2 「秋田文壇漫語」小島かはたれ  
 「雨と赤コンロ」児玉花外  
 「諒闇の春寂し」赤川菊村  
 3 詩「月光五章」小山直幹  
 4 「明日の花」伊藤猷三  
 5 「冬を持って来る男」小島かはたれ  
 「秋ふけて」（☆短歌13首）大場忠男  
 6 「愚人夢語」松川仙子  
 7 詩「静夜に祈る」三木茂二  
 童話「島の幸福」橘研精 10日 3回完
- 8 詩「お、風よ吹け吹け」渥美不二雄  
 9 「海」松井善四郎  
 11 詩「晩秋の唄」意志太幽像  
 「或る仇討ち」春山咲雄 14日 4回完  
 13 詩「自己葬送」淡路半治  
 「世界文学全集について」木村毅  
 15 詩「空腹」岩井川石五郎  
 詩「お祭」小山直幹  
 16 「光に生きる」世に出づ」今野賢三  
 17 詩「松明の夜の美」児玉花外  
 18 「春先の或日」八柳愛泉  
 「無礼なメモ」小山内松夫  
 19 詩「秋をうたふ」小松常太郎  
 「無産者文芸に対する一考察」里村栄三郎 23日 5回完  
 詩「八手の葉」小山直幹  
 「河畔の秋」杉山芳太郎  
 20 「一つの傾向に就いて」楠田敏郎  
 「私と東京」ゆうのすけ 3・2 7回完  
 「短詩三篇」佐藤稜太郎  
 22 詩「峠の路」岩井川石五郎  
 「人事篇」（☆短歌7首）渡辺文筆  
 23 「箱車の遠足」花咲春雄 27日 3回完  
 「早春病床記」斎藤修 27日完  
 「近詠八首」中村徳也  
 27 詩「白っぽい風景」小林恒三  
 詩「秋におくる」関端男  
 3 1 「去る日ごろより」（☆短歌10首）大場忠男  
 手帳から」佐々木愿

- // 詩「初雪の朝」佐々木利助  
 2 「外遊で聞いた鐘の話」西條八十  
 // 「詩は神事である―シェイクイの詩論―」水戸敬之助  
 // 「撃たれた兎」高橋千代三郎  
 // 詩「餓と暖房」布谷晴雄  
 // 「ひと筋に」(☆短歌16首) 増村紳  
 3 「夢と文学」佐藤春夫 6日 4回完  
 // 詩「風雨」 田建  
 // 「山家の詩章」岩井川石五郎  
 // 「幻の囁き」かわらだ不陽  
 4 「女性と文学」今野賢三  
 // 「冬日雑記」小松長路  
 // 詩「静動」水町美紗雄  
 // 「義男の名将北条綱成」松田竹嶼 9・28 205回完  
 // 詩「子供」竹内映二郎  
 5 「墮落」小山内松夫  
 // 詩「夜の霞」増村純  
 // 「川原の一本柳」鎌田達三  
 6 「新文芸と人生が永遠に求むる芸術の創造―新時代に於けるネオ・ロマンチズムの勃興―」石田雄三 17日 10回完  
 8 「英文学と我国現代文化」峰尾都治 10日 3回完  
 // 「砂を握れば」(☆短歌13首) 高橋慶太郎  
 // 詩「不思議」水町みさを  
 // 詩「冬の香」石川ゆう  
 // 「雷に与ふる詩」み、みさを  
 9 「ベンチ」近藤晴美 10日 3回完  
 // 詩「あらし」梅田幸泉  
 // 詩「吹雪の中に」岩井川石五郎  
 11 「近時雑感」百木善一郎  
 12 「出目金太郎物語」富宗也 24日 6回完  
 // 詩「初春に悩む」熊谷直比兎  
 13 「暁」の完成」越後谷隆一 18日 2回完  
 // 「死んだ筈の春が笑った」布谷春雄  
 15 「郷土文芸の新勢力」井上康文 17日 2回完  
 // 「春光集」(☆短歌12首) 幸野谷貞一  
 19 「冬の苔」(☆短歌10首) 村越千一  
 20 「春の出発」小島かはたれ  
 // 詩「冷光」小松常太郎  
 25 「雪と狼」(☆短歌13首) 石川ヤウ子  
 // 「作家の態度」新居格  
 // 「春風を視る」藤林紫閑  
 // 詩「震へる花」島山剛三  
 // 詩「獣売らるゝ」斎藤落葉  
 26 「就職前」中村裕孝 4・2 5回完  
 // 「憂鬱な花嫁に贈る詩」野久地龍  
 30 「冬の歌」(☆短歌10首) 佐藤一  
 41 「明治文学回顧漫談」森田草平 3日 3回完  
 // 「旅の詩人西行法師」吉田絃二郎  
 // 「無名」十二号創作短評」伊藤猷三  
 2 「詩「秋、木の葉」み、みさを  
 // 島木赤彦先生追悼全県短歌大会詠草  
 3 「心の記録」佐々木愿 8日 5回完  
 // 「花壇漫言」志村孝太郎 6日 3回完  
 // 詩「人生の版画」野久地龍  
 // 詩「秋一景」渥美不二雄

- 詩「死」明暗樓主人  
 柿沼不泣逝く（☆記事）  
 詩「山二題」武田亞公  
 「ピチブルヂョアよ」水町みさを  
 「昭和期第二信」富田治夫 8日 3回完  
 「自炊生活の歌」（☆短歌9首）鈴木月城  
 「病院生活」（☆短歌12首）港よしはる  
 「憂鬱なるロマンチイストの花」石田幽像 10日 4回完  
 「伊藤永之介氏『赤い石』読後小感」谷沢林之助 10回完  
 「病児を看護るの記」武埴三山 16日 7回完  
 詩「白日懊惱」サイトウ・コウ  
 詩「春と私」野久地龍  
 13欠  
 「潮音」高橋慶太郎 16日 3回完  
 「柿沼不泣君の追憶」松井善四郎 5・5 15回完（☆執筆  
 者は他に勝田無曲、安藤和風、今野賢三、大坂満紗丸、中山善  
 三郎、真宮白龍、杉山芳太郎、三宅昌一、金子洋文、中川化生、  
 新山愁破、安達一郎、松本源太郎、柿沼敏雄、大黒富治）  
 「三人の女」今野賢三 11・13 16回完  
 「夕話」越後谷隆二 20日 3回完  
 「島の雑記帳より」筒井芳太郎  
 詩「続未登録の小説」梅田義丸  
 詩「パカボン」斎藤新三  
 「恐怖」明照倫侶 5・5 11回完  
 詩「空と心と」岩井川石五郎  
 「孵化場行き」（☆短歌16首）栗林久治  
 山田順子さん花嫁になる・三人の子を抱へて相手は慶応の  
 学生さん（☆記事）
- 29 「柿沼不泣」（☆短歌7首）安達一郎  
 31欠  
 51 「森田草平氏のことども」白幡静憲  
 「新茶集」（☆短歌12首）大場忠男  
 2 「侮辱されたる詩」佐々木愿  
 「春の夜に考へる」前田五百枝 4日 2回完  
 「何故レ・ミゼラブルを書いたか（ヴィクトル・ユーゴーの  
 手紙）」水戸敬之助訳  
 4 「我を視る」松川仙子 7日 3回完  
 5 「サン・シモンに与へた宗教観（カーライルの書幹より）」  
 水戸敬之助訳  
 7 「掌篇試作集」白幡静憲 8日完  
 8 「早春の歌」鎌田運三  
 「民謡と国民生活と」白鳥省吾  
 「この頃の感想」磯川潤子 12日 3回完  
 10 「北風よ」佐藤稜太郎  
 11 「歌舞伎劇は減びるか」小山内薫 13日 3回完  
 改造社版「現代日本文学全集」広告文 菊地寛、広津和郎、  
 大山郁夫、佐藤春夫  
 12 詩「郊外の朝」小林恒一  
 13 「春愁」（☆短歌14首）中村秋風  
 「独活」柿崎壊外 14日完  
 「小さな花輪」伊藤永之介  
 「童話黄金の釜」橘研精  
 「楓の芽」（☆短歌10首）大場忠男  
 安藤和風翁壽碑建立式（☆記事）  
 詩「春の抒情」小山直幹  
 「時代と美と道徳」佐藤春夫（談） 24日 3回完

- 詩「セント、エルモの火」菅多代子  
 21 「春潮篇」(☆短歌9首) 渡辺文筆  
 25 「路傍」(☆短歌12首) 遠藤桂風  
 28 「徂春雜記」小島かはたれ  
 6 2 「村莊漫筆」梅沢和軒 3日完  
 「藤花三題」小島かはたれ  
 「けふる雨」磯川潤子  
 「小田の流れ」(☆短歌12首) 大場忠男  
 5 「島木赤彦と私」前田夕暮(談)  
 「女二題」佐々木愿  
 6 菊地寛氏「行文芸大講演会いよいよ十日夜」(☆記事)  
 7 欠  
 8 「感想的評論」伊藤猷三  
 「海辺の恋人」高橋慶太郎 10日完  
 9 「プロ作家の歩む路」中西伊之助  
 「日常茶飯歌」(☆短歌12首) 谷沢林之助  
 10 「農民文学への期待」楠田敏郎 11日完  
 「映画と文芸」井上康文  
 「吉野山」(☆短歌5首) 木下利玄  
 詩「ふと」富田治夫  
 11 「三人集」(☆短歌6首) 斎藤茂吉、原阿佐緒、釈迢空  
 12 「尽日」三戸如雄 16日 3回完  
 「かよひ路」(☆短歌12首) 遠藤桂風  
 14 「『あかね』を讀みて」藤田紫橋 15日完  
 15 「初春雜唱」(☆短歌15首) 高橋弥三郎  
 「第六感を交へて」伊藤猷三君に問ふ」阿部孝一  
 16 「日の照る道」(☆短歌15首) 大場忠男  
 「高麗焼の話」安達一郎 20日 4回完  
 「外人崇拜性」井上康文 18日完  
 18 詩「田舎の色」小林兼  
 19 「第六感を交へて」への応酬」阿部孝一君へ」伊藤猷三  
 21 「初笑」(☆短歌6首) 中村憲吉  
 「ゲーテ詩集から」清水玲之助訳  
 22 詩「桂月忌と函閑」児玉花外  
 「松島」小島かはたれ  
 24 詩「故郷の顔」小林兼  
 25 「愚かに親切に云ふ」再び伊藤君に」阿部孝一 26日完  
 「花——花——花」伊藤永之介  
 26 詩「鬼の祈り」中村次郎  
 28 「想片」佐々木愿 7・3完  
 30 詩「象潟海岸にて」野久地龍  
 7 1 「入院」大島舟子 2日完  
 「空な乳母車」小島かはたれ 6日完  
 5 「中央で活動する秋田の人々・伊藤永之介さん」記者  
 7 「海辺遊記」越後策三 10日 4回完  
 8 詩「貧しき子等は遊ぶ」石田勝郎  
 「欠伸」安達一郎  
 9 「旅の歌」(☆短歌17首) 伊藤貞之助  
 「より以前」松川仙子 13日 4回完  
 「中央で活動する秋田の人々・金子洋文さん」記者  
 10 「出産の歌」(☆短歌18首) 鈴木月城  
 12 「平泉」(☆短歌13首) 遠藤桂風  
 詩「初夏詩情」井島為治  
 13 「詩三つ」佐々木愿  
 詩「曙」安達一郎

- 16 詩「ウインネツケ彗星」三部林  
 17 「落日」小島かたはれ 21日 4回完  
 19 「昭和期第五信」富田治夫  
 20 「山水微唱」(☆短歌14首) 大場忠男  
 詩「うらわかい百姓」佐藤宗長  
 22 「雑詠」(☆短歌7首) 佐々木伸之介  
 「釣」安達一郎 24日 3回完  
 23 「観哀篇」(☆短歌9首) 渡辺文筆  
 「碼頭情景詩」佐々木三郎  
 24 「身辺近事」(☆短歌10首) 越後策三  
 芥川龍之介毒菓自殺す(☆記事)  
 26 「西瓜の好きな俳人子規その他」茶谷八郎  
 27 「短詩五篇」松井青之介  
 芥川氏の遺書(☆写真、記事)  
 29 「夏の雑観」中山善三郎 8・4 4回完  
 31 詩「蛇毒」安達一郎  
 「金歯―アルペール・ジャン」諸岡弘訳  
 「家郷漫吟」(☆短歌17首) 大場忠男  
 詩「射撃場の自分等」美登屋保美  
 8 2 詩「重たい時代」佐々木愿  
 3 詩「荊の冠」菅多代子  
 5 「街」初便」中村祐孝  
 6 「旅から旅」(☆短歌13首) 大場忠男  
 「詩のころろ」多田不二  
 7 「中村徳也氏へ一矢」藤田紫橋  
 詩「恋情」小林兼  
 「無産派芸術家連盟分裂の直想と我労農芸術家連盟」佐々木  
 孝丸 9日完
- 18 「山家の一日」(☆短歌7首) 栗林久司  
 「いたづら小僧」髯男子 11日 4回完  
 9 「芸術に対する二つの障碍」藤森成吉  
 10 「芸術に対する二つの障碍」葉山嘉樹  
 「浜辺の花」(☆短歌16首) 高橋慶太郎  
 12 「上杉勇次氏の近業『愛欲』を讀みて」永井重悦  
 13 「瀬々の音」(☆短歌15首) 遠藤桂風  
 「掌上詩編」二山孤泣  
 14 「男鹿島巡り」(☆短歌8首) 升屋忠治  
 「我鬼抄」想記Ⅱ詩歌に現はれた芥川龍之介Ⅱ」茶谷八郎  
 「憂鬱と生存」油谷宙詩樓  
 16 「結城哀草果師を訪ふ」(☆短歌13首) 大場忠男  
 17 「十和田湖と泉鏡花先生」無名氏  
 「わが家」(☆短歌10首) 中島新一  
 18 「骨董的芸術と生きた芸術Ⅱ新しい演劇についてⅡ」小山内  
 薫  
 「詩」佐々木愿  
 19 「童謡の教へ方」野口雨情 21 3回完  
 20 詩「臆病者」水沼藻之介  
 「秋きたる」(☆短歌15首) 石川ヤウ子  
 「天地の二景物」国安桂水  
 「海」安達一郎  
 21 「閑日随想小筆」阿曾村秀一 9・1 7回完  
 24 「砂山の峽」(☆短歌15首) 館岡京之介  
 「夏拾遺」(☆短歌15首) 石川ヤウ子  
 26 詩「郷里集」伊藤永之介  
 27 「死の皮相感」藤林紫閑 9・1 5回完  
 「骨をさらはれたる」秋篠三郎 28日完

- 詩「寂しい淀泊他一篇」渡部欣一郎  
 28 「新しき批評」藏原惟人  
 詩「近代風景」小林恒一  
 30 「私の女学生時代」三宅花園  
 「批評問題雑感」若尾伊助  
 31 「笑ひのない銀座」高橋たかし  
 詩「夏日漫唱篇」佐々木三郎  
 詩「暮愁抒歌」水島皎  
 9 1 詩「人間世間」岩井川五郎  
 「秋風の裾」小島かはたれ  
 「新涼漫筆」大場忠男  
 4 「『散華』発行所を訪ふ」(☆短歌15首) 大場忠男  
 6 「弟の死」ゆうのすけ 8日 3回完  
 「飛鳥の巡查こと」単純な男「礼讃」小島かはたれ  
 7 「故郷の山川と人」磯川潤子  
 9 「立秋を前に」富田治夫  
 詩「下りてきてみる」小林兼  
 10 「『単純な男』に寄せて」伊藤永之介  
 「秋の登音を聞く」高橋慶太郎 14日 3回完  
 11 「秋の自然」井上康文  
 「秋風秋語」中村徳也 14日完  
 13 「港その他」松井青之介  
 「山莊雜記」忍怒濤 23日 10回完  
 詩「変った風情」嶋貴隆之助  
 14 詩「少女を唄へる」石村利喜松  
 「『単純な男』と作者」勝田無曲  
 15 「続秋風の裾」小島かはたれ  
 16 「『単純な男』を手にして」崑山花城  
 18 「秋風雜記」茶谷八郎  
 20 「中村徳也の歌を評す」大場忠男  
 「初秋雜詠」(☆短歌10首) 石田勝郎  
 詩「墓場はい、ところ」高橋武郎  
 21 「詩五章」松井青之介  
 「山と人」(☆短歌10首) 中島耕一  
 22 「俳句と吾れ」明石原人子  
 「出帆の嵐—故郷の友へ—」三輪猛雄 24日 3回完  
 24 文豪蘆花翁告別式(☆記事)  
 「国語と童謡」山田紘一  
 「霖雨」(☆短歌14首) 黒沢十郎  
 25 欠  
 27 「大砲詩篇」佐々木三朗  
 「紫の花」(☆短歌10首) 遠藤桂風  
 29 「山旅」(☆短歌30首) 鈴木正之  
 童話「つばめとアンテナ」飯田多給子 10・1 2回完  
 「新講談大久保武蔵鑑」南海夢楽 3・2・28 150回完  
 「秋日詩抄五篇」小山直幹  
 10 1 「越路の旅」(☆短歌7首) なら、たまのすけ  
 「秋意」(☆短歌16首) 升屋忠治  
 2 詩「機械」佐々木愿  
 4 「自己の表白—青年に俳句を勧める—」吉田麗水  
 「子規忌雜記」翠雨記  
 5 「『単純な男』を読んだので」山田紅一  
 「御所野台の感傷」阿曾村秀一 7日 3回完  
 6 「幻想のセキヤ」大久保哲之助  
 7 「私の人生観」渡辺文筆  
 「初秋小情」(☆短歌12首) 幸野谷貞一

- 8 「第一回魁俳壇全県俳句大会句抄」
- 9 「秋と対ふ」阿部たつを
- 「登山詩篇」松井青之介
- 11 「人生を自殺する」井上康文
- 「旅行きて歌へる」（☆短歌17首）阿部たつを
- 「手術前後」（☆10首）中島耕一
- 12 「旅立並に『散華』発刊の事」大場忠男
- 「詩」恋愛売買夜のヒロイン」佐々木三朗
- 13 「詩一篇」野久地龍
- 「リリオムを読んで」三田玲之介
- 14 「生活断片」三輪猛雄
- 15 「自殺について」武者小路実篤
- 16 「心静けし」（☆短歌12首）遠藤桂風
- 19 「菊地寛攻撃と文士の無頼」斬馬剣人
- 「詩」無風帯な男」川崎定造
- 20 「詩」非常な府」小林恒一
- 21 「第一回俳句大会句抄私見」内田彭鱗 23日 2回完
- 22 「『散華』歌評」大場忠男 23日完
- 「詩」秋の色」小林兼
- 23 童話「ある詩人の話」路男 24日完
- 25 「『街』を歩いて」井嶋爲治 27日 3回完
- 31欠
- 11 2 「短詩型流行と諷詩に就て」畑喜代司
- 「童話」嘘を生んだ柘榴の実」花園春子 4日 3回完
- 3 「小杉兼詩集『燃ゆる墓場』を読む」佐々木愿 5日完
- 6 「病想断想」野久地龍
- 9 「詩の本質」畑喜代司
- 10 「農民文学と牧歌的文芸」木村毅 12日 3回完
- 「随感私語」阿曾村秀一 15日 5回完
- 「燃ゆる墓場」に就いて」高田治夫
- 水蔭氏講演会（☆記事）
- 12 「新講談下女の男殺し」高石一三 19日 8回完
- 「詩一篇」松井青之介
- 15 「横浜にてうたへる詩」小松常太郎
- 17 「快樂の宗教」福田正夫 18日完
- 19 「波止場」小林恒三
- 20 「狼と仔山羊」グリムのお伽噺」安達生
- 「秋日微唱」（☆短歌9首）谷沢林之助
- 22 「詩」椿の村」山崎四郎
- 23 「新しき村の運動に関する一考察」辻本浩太郎 25日完
- 12 1 「最近海外文芸消談」安部志郎
- 3 「微笑を忘れた『三人の女』其他」植村俊雄
- 4 「町の音楽師」グリムのお伽噺」安達生 5日完
- 「童話の本質的使命」畑喜代司
- 「『街』雑感」小浜亮一
- 9 「詩五篇」松井青之介
- 14 「京神の二日」（☆短歌7首）なら、たまのすけ
- 「詩」脈博の怒漲」布谷晴雄
- 15 「マガイの贈物」O・ヘンリ作、豊沢武訳 17日 3回完
- 「詩」洗髮床」布谷晴雄
- 16 「硝子を打つ人」中村祐孝 18日完
- 17 「マガイの贈物」の原作者」光霧
- 18 「秋恨歌」（☆短歌11首）渡辺文筆
- 「詩雑誌『詩集』紹介」大蔵徳英
- 21 「植村俊雄君へ」越後谷隆一
- 23 「農民文学と牧歌的文芸」木村毅 12日 3回完

- 24 「文壇の感覺的傾向」金子光晴 25日完  
 27 「散華」批評 小浜亮一  
 28 詩「わくら葉」紅真珠  
 「詩二つ」小松常太郎
- 昭和三年
- 1 「新年の有言」金子洋文  
 3 「俳句帖回顧」小野賢一郎  
 4 「靴のお囃」小杉扶美子  
 「電車にて」伊藤永之介  
 「福田正夫のこと」陶丘化  
 6 「零点」石井雲獄 8日 3回完  
 14 「赤帽子さん」グリムのお伽噺」郁太郎訳 15日完  
 17 詩「病む日過ぎて」紅真珠  
 「或る娼婦」フランソア・コッペ」国本善治訳 21日 3回完
- 22 「少年小説幻の未来」平木二六 24日 3回完  
 「女の唇を盗んだ男」関清瀾 24日 2回完  
 23 「新講談呪の軍船」行友李風 8・17 204回完  
 「漫文笑説狎は吠える」古川長二郎 29日 5回完  
 「街道」時代追想」石田勝郎 27日 3回完  
 28 「雪の旅」井上康文 29日完  
 「心とペン」小浜亮二  
 「現俳壇の二傾向」写実派と情趣派」伊藤銀月  
 29 「大衆文芸の性質と将来の帰趨問題」山崎俊介  
 「街」批評」秋山光  
 「越後谷金平の死」富田治夫
- 31 「創作童話どんぐりの実」木下秋麿 2・2 3回完  
 2 「晚秋十首」遠藤桂風  
 3 「越後」小島かはたれ  
 4 「魁歌壇其の他」渡辺文筆  
 「農民の言葉」以後」福田正夫 5日完  
 7 詩「晩秋を行く」のりひで  
 8 「詩の普遍性」林静雄  
 10 「青い旗」松井青之介  
 「机上漫文」小野賢一郎  
 11 「身辺雑記」阿曾村秀一 15日 3回完  
 14 「現在の詩壇」金子光晴  
 15 「童話茂兵衛さんの牛」成田龍平  
 17 詩「哀歌」水戸敬之助  
 18 「歌壇の革新を提唱す」渡辺文筆  
 19 詩「雪の朝」布谷晴雄  
 20 「七月の草」R・ジェファリス作、豊沢武訳  
 21 詩「大地は培ふ」福田徳太郎  
 23 「童話王様とつば売り」多賀文夫 25日 4回完  
 24 「夢を云ふ」小山内松夫 25日完  
 26 詩「協和音の春よ」渡部義人  
 「童話龍王とト者」白井史郎 3・5 4回完  
 28 詩「カメレオン」小林恒一  
 詩「夢」紅しんじゅ  
 「地獄の花」と裁断批評」中村祐孝 29日完  
 「剣俠自来也」山本柳葉 12・12 284回完  
 3 1 「マルクス文学の独断」吉田一穂  
 5 「小産三篇」児玉たけし  
 詩「顔のない街」松井青之介 6日完

- 6 「病中歌篇」（☆短歌7首）貝塚修  
7 「現実の上に」平林たい子  
8 「京洛早春夜話」石田兵四郎 8日完  
9 「プロ文学の価値と目的」葉山嘉樹  
10 「ロシア文学雑談」若狭千代治 14日 2回完  
11 「追想」中村祐孝  
12 「詩篇」佐々木愿  
13 「新講談うらみの炎」高石一三 20日 9回完  
14 「古代文学と詞曲」折口信夫  
15 「近代劇の父イブセン」長沼重隆 21日完  
16 「断腸篇」（☆短歌15首）遠藤桂風  
17 「新感覺派の発想」吉田一穂  
18 「三日の詩」松井青之介  
19 「秋田に於けるプロレタリア文芸運動」白須孝輔  
20 「新作童話小鳥の願ひ」薄木みどり 25日 4回完  
21 「うたへうたびと」（☆短歌8首）おびやきゆたろ  
22 「長篇小説時代」福田正夫 27日 2回完  
23 「宗教童話お釈迦さま」橘良之助 29日 4回完  
24 「農民文芸の提唱」佐藤土温  
25 「詩「乾物を噛む」」佐藤春吉  
26 「玉葱芽を吹けば」小島かはたれ  
27 「商旅雑詠」（☆短歌11首）寺田忠男  
28 「ブルジョア芸術観の批判」秋山光 4・5 5回完  
29 「金子洋文氏の『銃火』を読者に送る」今野賢三 31日完  
30 「極みなき恋」柳原燐子 9・28 154回完  
31 「あら野」（☆短歌10首）升屋忠治  
32 「故郷への詩三篇」野久地龍  
33 「新作童話りこうな弟兔」山下光雄 7日 5回完
- 3 「詩「砂丘にのぼる」」福田徳太郎  
4 「イブセンの人と作」中村吉蔵  
5 「詩「こどもらは恋人です」」伊藤たゞし  
6 「早々折々」（☆短歌10首）中川化生  
7 「新作童話ふしぎな老人」多賀文夫 11日 3回完  
8 「病床消息」松井善四郎 12日 3回完  
9 「詩「春」紅真珠  
10 「新作童話李春が見た夢」松下潤 18日 7回完  
11 「映画と文学」昇曙夢（談） 13日完  
12 「「明るさ」と「暗さ」と」畑喜代司  
13 「詩「海浜抒情」」佐藤春吉  
14 「農民運動と農民文芸」佐藤土温  
15 「夜は夢を産む」小島かはたれ 17日完  
16 「煙みたいな話」小山内松夫 18日 3回完  
17 「病める少年」（☆短歌13首）中島耕一  
18 「早春雑報」（☆短歌9首）たにさは生  
19 「愚者悩吟」（☆短歌9首）寺田忠男  
20 「芸術的名映画『嘆きのピエロ』物語」今野賢三 22日完  
21 「新作童話馬鹿正直の男が命を貰ふ話」引場駒二郎  
22 「文芸の道」福田正夫 25日完  
23 「詩「悲しき砲手」」佐々木三朗  
24 「通俗童話ハンタカ尊者」笹山龍風  
25 「賢三氏の芸術―短篇等『汽笛』雑感」秋山光 11日完  
26 「啄木遊いて十七年―遺孀京子さんを函館に訪ふの記」高橋慶太郎 6・13 23回完  
27 「大衆文芸の位置」金子光晴 20日 3回完  
28 「詩「生活の歌」」高橋登美子  
29 「詩三篇」佐々木愿

- 27 「この頃」(☆短歌10首) 升屋忠治  
 「逝春余寒詩抄」水戸敬之助  
 29 詩「蛆の天国!」中村次郎  
 30 「新作童話おろかな十姉妹」幡谷澄男 31日 3回完  
 「汽笛」その他II最近の感想II 今野賢三  
 「来るべき新文芸に就いて」畑喜代司  
 6 1 「新作童話ラヂオの春ちゃん」平野止夫 3日 3回完  
 詩「女給の点在する風景」小島かはたれ  
 4 「童話」エロ」富谷千代子 5日完  
 5 詩「孤独な心の部屋」水戸敬之助  
 6 「童話不思議な鏡」畑喜代司 11日 5回完  
 詩「酒瓶」佐々木愿  
 19 「鶯」(☆短歌15首) 遠藤桂風  
 28 「今野賢三氏の感想を読んで」高橋誠一郎 21日 3回完  
 「イリアド物語」勝田無曲 8・3 35回完  
 30 「新劇映画教育IIその他高橋君についてII」今野賢三 7?  
 5 5回完  
 7 5 「エウモアの話」佐々木邦 6日完  
 10 「渡場折々」(☆短歌12首) 遠藤桂風  
 15 「歌壇の二傾向を見る」楠田敏郎 17日 2回完  
 17 「友を思ふ」小島健二  
 詩「雨の降る夜」高橋登美子  
 20 「河鹿の音」(☆短歌9首) 松本源太良  
 21 「雑文四題」松煙煙夫  
 22 「芸術断想」高橋誠一郎 25日 3回完  
 24 「失明雑詠」(☆短歌23首) 浮嶋命太郎 25日完  
 26 詩「赤暗い灯」佐々木愿  
 28 「初夏余情」(☆短歌12首) 中村徳也  
 29 「小鎌集」(☆短歌10首) 升屋忠治  
 31 「婦女身」をよみて」鷺尾世枝子 8・1完  
 8 1 「吾子の死」(☆短歌10首) 倉田政嗣  
 2 「梅雨の慈眼寺」芥川龍之介と司馬江漢の墓」赤川菊村 3日完  
 「あた、かき春」(☆短歌9首) 幸野谷貞一  
 「文戦」一派の主体II金子洋文への反駁II」秋山 光 7日 4回完  
 5 「童話裏町の船」垂水青街 12日 7回完  
 8 「柿沼不泣遺稿集(発刊に際して)」和崎ハル 26日 3回完  
 11 「ホームーについて」勝田無曲 18日 7回完  
 12 「赤帝景情」(☆短歌12首) 浮嶋命太郎  
 13 「童話七色の鮑」笹川蟹彦  
 15 「童話旅あきんどと黄金の箸」比野りうほ  
 17 「童話頭を打ち割って緋縮緬が出た話」弓場駒二郎  
 「現実主義の立場」福田正夫  
 「お汁」アルフレット・マアシヤアル、諸岡弘訳 19日 3回完  
 18 「清水の次郎長」神田伯山 4・4・1 221回完  
 19 「童話欲張り男が夢を見た話」弓場駒二郎  
 21 「童話人魚の唄」関谷いわを 26日 6回完  
 「ひぐらし」(☆短歌12首) 遠藤桂風  
 25 「柿沼貫一遺稿集『不泣の面影』に就いて」松井善四郎 26日完  
 28 30欠  
 9 1 「童話ルベへの話」林 静雄

- 〃 「欧州現代劇作家研究の一部Ⅱモルナル私見Ⅱ」高橋誠一  
 郎 5日 5回完  
 2 「恋愛反逆」小島かはたれ 14日 4回完  
 〃 「高湯温泉詠草」(☆短歌6首) 寺田忠男  
 4 「童話王子たちと林檎の話」北野りうほ  
 6 「教訓童話遠い都へ」村井武生 12日 7回完  
 〃 「文芸戦線の立場」伊藤永之介  
 7 「自然志」ジュウル・ルナル、諸岡弘訳 18日 9回完  
 〃 「夏炉冬扇」(☆短歌11首) 升屋忠治  
 8 「恋愛、結婚、道徳」今野賢三 11日 3回完  
 9 「不泣への言葉」小島健三  
 12 「海踊り」(☆短歌11首) 安達一郎  
 13 「少女小説ダリヤの花」水町潤子 14日完  
 14 「文芸時評」高橋誠一郎 23日 5回完  
 〃 「新秋礼讃」(☆短歌15首) 浮嶋命太  
 15 「童話負惜みの強い愚かな熊」河原築之助  
 18 「庭前残暑」(☆短歌11首) 鈴木月城  
 19 「太陽に直面して」(☆俳句15句) 斎藤露葉  
 〃 「通俗教育講談秋田義民伝」笹山龍風 20日完  
 21 「『文芸戦線』の立場を駁す」秋山光 23日 3回完  
 25 「山房漫筆」大淵幸三  
 26 「若山牧水の印象」中村徳也  
 〃 詩「八月の羽織」大蔵徳英  
 27 「第三回魁俳壇全県俳句大会句抄」 28日完  
 29 「遺稿集を見る」勝田無曲 30日完  
 〃 「恐怖の愛」片岡鉄兵 4・5・21 190回完  
 30 「銀河」(☆短歌12首) 遠藤桂風  
 「伝説童話星姫と作」平埜止夫 8日 3回完  
 〃 「初秋スケッチ」(☆俳句10句) なら、たまのすけ  
 3 「遺稿集をよみて」小島彼誰  
 4 「芸術大衆化論の批判―秋山光君に送る―」左橋与四郎  
 日 9回完  
 9 「『小兒病』を打つ」金子洋文  
 〃 詩「飛蟻と秋の夜の静物」三都馨之介  
 10 「孤独のトルストイ」米川正夫氏談 14日 5回完  
 11 「吾子の歌」(☆短歌12首) 貝塚修  
 12 「コスモス」(☆短歌13首) 安達一郎  
 〃 「石井露月翁と私」赤川菊村 17日 5回完  
 14 「峽村雑詠」(☆短歌14首) 佐藤はじめ  
 20欠  
 21 「白萩」(☆短歌11首) 升屋忠治  
 26 「山峽秋景」(☆短歌10首) 越後策三  
 28 「回想」木村非常 11・1 4回完  
 30 「仙境をたづねて」佐々木登美子 31日完  
 31 「時雨」(☆短歌10首) 黒沢十郎  
 11  
 1 「新作童話玉石の自慢」畑喜代司 2日完  
 〃 「向日葵の女」飯島実 20日 13回完  
 2 「故郷」(☆短歌11首) 安達一郎  
 3 「童話猿まはし」田中宇一郎 5日 3回完  
 6 「童話とかげのしっぽ」山川龍彦  
 7欠  
 8 「童話小人の御馳走」詩賦野悟郎 13日 7日完  
 〃 「秋風韻抄」(☆短歌11首) 浮嶋命太  
 14 「童話幸福の約束」福田正夫 17日 4回完  
 17 「投稿歌十六首」藤本裸木  
 20 「一輪ざし」(☆短歌5首) 狐崎ひさ子

- 11 「新年の自己を語る」 今野賢三 15日 3回完
- 9 「劇の三体」 仲木貞一
- 8 「新作童話戦友のばあや」 高村盈之介 12日 5回完
- 7 「童話二つの宝」 小川龍彦
- 6 「黄金色の林檎」 (☆翻案) 小杉扶美
- 5 「空中礼讃」 (☆短歌14首) 川越守固
- 4 「新年を追ふて」 金子洋文
- 2 「冬川外四篇」 升屋忠治
- 「詩」 酒壺 斎藤落葉
- 「トルストイを憶ふ」 榎本秋村
- 「元朝風景」 (☆短歌8首) 浮嶋命太
- 「ローマンス」 斎藤佳三
- 1 「田家朝」 (☆短歌12首) 遠藤桂風
- 12 「病みて」 (☆短歌12首) 八柳愛泉
- 4 「山つ風」 (☆短歌12首) 田村巖
- 6 「落穂」 (☆短歌14首) 升屋忠治
- 12 「深秋詩意」 (☆短歌17首) 浮嶋命太 13日完
- 13 「熱血情史刃光」 東弘 4・6・12 170回完
- 16 「商を求めて」 (☆短歌10首) 越後策三
- 23 「辰歳残詠」 (☆短歌12首) 遠藤桂風
- 25 「酒田旅詠」 (☆短歌) 吉田忠男
- 28 「内裏の雛」 高橋登美子
- 29 舞台の花に遺骸包まれて、小山内氏の葬儀 (☆記事)
- 「ふるさと」 富田治夫
- 昭和四年
- 12 「踊りを踊りたい」 小島かはたれ
- 19 「芸術とは何ぞや」 阿部次郎 20日完
- 「詩」 田家の朝 葉連京一
- 20 「歌壇革新運動と羽後支社の設置」 渡辺文筆
- 23 「童話赤いマント」 山本雅樹 28日 6回完
- 25 「旅の中のきれいな妻と子」 三輪猛雄
- 27、29欠
- 30 「青帝画卷」 (☆短歌16首) 浮嶋命太 31日完
- 2 「新作童話珍々やあい漢々やあい」 垂水青街 8日 8回完
- 「詩」 目ざめ 島貫隆之助
- 3 「詩の断片的考察」 三輪猛雄
- 「恋歌十首」 佐藤維四郎
- 6 「光の中に冬はある」 小林恒二
- 9 「童話天へ昇る金魚」 小川龍彦
- 10 「吹雪礼讃歌」 (☆短歌10首) 越後策三
- 14 「童話紙風船」 香川春夫 13日 4回完
- 14 「童話曲馬団の少年」 平木二六 17日 4回完
- 「詩」 都会の夜の手のひら 水戸敬之助
- 19 「短歌の短長短長の格律」 佐々木妙二 20日完
- 20 「早春片々」 (☆短歌13首) 浮嶋命太 21日完
- 24 「近影」 佐々木妙二
- 3 「新講談禍ひの百両」 青島潮 7日 7回完
- 1 「創作扉をたく」 寄木館文郎 4・12 34回完
- 2 「俳句小見」 石山北山
- 3 「農民文芸の立場」 佐藤土温
- 7 「春の嵐の中にこそ」 三輪猛雄
- 4 「新作童話高麗狗の眼」 江原伸信 7日 6回完
- 「春陽新影」 (☆短歌14首) 浮嶋命太 3日完

- # 「講談荒浪地獄」 悟道軒円玉 8・4 119回完  
 3 詩「春歡迎の辞」 小島かはたれ  
 5 「文芸に志す若き女性へ」 徳田秋声氏談  
 8 「支那童話猿島王」 鎌田正 19日 9回完  
 10 「有島武郎氏を想ふ」『有島武郎全集』発行に際して」 生田 春月  
 11 「春寒し」(☆短歌9首) 御園妙子  
 20 「あら箕」(☆短歌12首) 升屋忠治  
 27 「閑春思興」(☆短歌15首) 浮嶋命太  
 5 1 「新作童話二つのお日様」 西川満  
 2 「農氏文芸雑考」 佐伯春星 7日 5回完  
 3 詩「自己喪失者の歌へる」 増村勇 15日 6回完  
 5 「新作童話武士になった渡守」 田山雍 10日 6回完  
 8 「手帖風景」 小山内松夫  
 9 詩「春の盃」 小島かはたれ 31日 6回完  
 22 「春魂洗礼」(☆短歌20首) 浮嶋命太  
 # 「大陸春愁」 田川柳二 10・13 136回完  
 28 詩「悪」 升屋忠治  
 6 1 「童話幸福になった若者」 畑喜代司 3日 3回完  
 # 「ロシアの文化的施設」 秋田雨雀 5日 4回完  
 # 「夜ぎくら」(☆短歌12首) 鷺尾よし子  
 2 「人形と玩具」(☆短歌9首) 升屋忠治  
 4 「下宿時代」 飯島実 28日 18回完  
 # 「支那童話石の裁判」 鎌田正  
 5 「童話涙の玉」 萩原純一郎 6日完  
 7 「深春彩信」(☆短歌8首) 浮嶋命太  
 # 「対話劇夢を聴く」 藤林紫閑 8日完  
 9 「童話空の映画」 徳永寿美子 11日 3回完  
 # 「対話劇耳で食ふ」 藤林紫閑 16日 7回完  
 12欠  
 13 「大江戸情痴綺譚恋慕流」 行友季風 10・6 104回完  
 14 「首夏淡色」(☆短歌8首) 浮嶋命太  
 18 「対話劇男が孕む」 藤林紫閑 20日 3回完  
 21 「羽後歌壇第一回大会詠草」 23日 3回完  
 25 「北恋ふる」(☆短歌20首) 小島かはたれ  
 26 「ふるかき」(☆短歌13首) 田村巖  
 28 文壇の耆宿内田魯庵氏危篤(☆記事)  
 29欠  
 30 「少年小説桜散る日」 くる、そつび  
 # 「日曜日」 蛭田武雄  
 7 1 「新作童話かいこの神さま」 平野止夫 5日 4回完  
 2 「兎と猫」 魯迅、鎌田正訳 3日完  
 4 「狩勝峠へ」(☆短歌12首) 小島かはたれ  
 # 「鉄槌」(☆短歌11首) 升屋忠治  
 6 「童話猫を売る少女」 勝田無曲  
 # 「芸術家の欠点」 阿部次郎  
 # 「札幌あたり」(☆短歌9首) 小島かはたれ  
 # 「石川理紀之助と森正隆」(☆戯曲) 佐藤土温 9日 3回完  
 7 「函館一と日」(☆短歌12首) 小島かはたれ  
 9 詩「病める妻」(☆短歌12首) 西宮さゆり  
 10 「帰途素画」(☆短歌7首) 小島かはたれ  
 # 詩「REFAOL」 増村勇  
 11 詩「青いめた囊」 布谷晴雄  
 12欠  
 13 「童話馬の恩返し」 田中宇一郎 16 4回完  
 17 「畏日印象」(☆短歌18首) 浮嶋命太 21日完

- 詩「LOAFER」増村勇
- 19 「夏雑詠」(☆短歌11首) 中川化生
- 24 「よしきり」(☆短歌10首) 小路たけを
- 29 「出羽の夏」(☆短歌14首) 中村徳也
- 8 2 「山寺の夏」(☆短歌11首) 竹内湛
- 4 「北恋ふる」(☆短歌15首) 小島かはたれ 6日完
- 「蒼白い愛人」蛭田武雄
- 5 「叙事詩コロは死んだ」升屋忠治
- 「義士外伝」悟道軒円玉 5・5・29 24回完
- 6 詩「いとしきものへ」三輪猛雄
- 7 「北方的な感傷」大滝重直 8日完
- 9 「山の心」(☆短歌12首) 遠藤桂風
- 11 「街上風景」(☆短歌10首) 中川化生
- 18 「潮音詩曲」(☆短歌8首) 浮嶋命太
- 20 「ジャズへージャズへー!」蛭田武雄 21日完
- 「月草」(☆短歌8首) 竹内湛
- 23 詩「田園の処女よ」菅原武一郎
- 25 欠
- 26 詩「自然」佐竹勤草
- 27 詩「憂鬱なる目覚め」朝日騎士雄
- 29 詩「毒葉」小沼柳二
- 30 「新しい手」増村勇
- 「小さき花」(☆短歌10首) 中島耕一
- 31 「詩人・放浪の子」谷口秋三郎書簡Ⅱ 山村草吉 9・1完
- 9 2 「信越の旅」本多勝治 21日 15回完
- 6 「夏より秋へ」(☆短歌15首) 御園妙子
- 7 「成長」(☆短歌10首) 升屋忠治
- 8 「悩みの日」(☆短歌11首) 西宮さだ子
- 9 「三人集」(☆短歌14首) 渡辺粹花、加賀源治、越後策三
- 10 「大曲遊詠」(☆短歌25首) 中村徳也 12日 2回完
- 12 「わが村其他」ジョウル・ルナル 諸岡弘訳
- 「ロマン、ロオラン会见記」中村星湖 14日 3回完
- 13 「母其他」(☆短歌9首) 中川化生
- 16 「山の町」(☆短歌12首) 遠藤桂風
- 17 「鳥海登山」(☆短歌12首) 斎藤路光
- 20 「その折ふし」(☆短歌10首) 貝塚修
- 22 「女性詠草」中村きみゑ、宮村てるよ、西宮さだ子
- 27 「農民文芸と体験」佐藤土温 28日完
- 「ラジオの昼寝」菅原武一郎
- 28 詩「夜の雨と神経」升屋忠治
- 10 1 「北方的な感傷」我が文学の或るノートよりⅡ 大滝重直 5日 5回完
- 「夜雨」(☆短歌12首) 遠藤桂風
- 「詩」或る日のこと 蓮光寺悦
- 3 「女性詠草」西宮さだ子、三浦葉子、加賀谷政子
- 4 「秋意」(☆短歌10首) 御園妙子
- 6 「プロ文学の表現に就て」内藤透
- 7 「新古典派」伊東月草
- 10 「秋日随想」最上運一郎 12日 3回完
- 「旅の秋」(☆短歌10首) 幸野谷貞一
- 「詩」生駒照る照る 寺田啄味
- 12 「折々の歌」(☆短歌12首) 斎藤路光、伊藤貞之助
- 14 「北原白秋の芸術」前田夕暮
- 「破綻」蓮光寺悦 17日 2回完
- 「探偵小説令嬢の化石」藪野赤太 5・3・16 13回完
- 17 「韭の花」(☆短歌12首) 遠藤桂風

- 11 2 「桔梗丘に遊ぶ」木村非弗
- 4 「幽囚の王子」ソログープ、石井清子訳 11日 8回完
- 7 「上る煙」(☆短歌12首) 遠藤桂風
- 8 「女性詠草」越前屋凜子、北原五十鈴、加賀谷政子、雨宮さだ子
- 9 「農民文学としての俳句」内藤透
- 「瞳」(☆短歌10首) 升屋忠治
- 11 「俳句に於ける写生に就て」伊藤月草 13日 3回完
- 17 「トルストイ論」若狭千代治 18日完
- 20 「蒼い斧」大滝重直 22日 3回完
- 21 欠
- 22 「菊の花」(☆短歌8首) 中村徳也
- 23 詩「心と心」北村五十鈴
- 25 「秋を行く」(☆短歌16首) 浮嶋命太
- 28 「農民文学論序説」大滝重直 12・3 5回完
- 12 1 欠
- 2 「霜月二十二日」(☆短歌27首) 高橋慶太郎 3日完
- 3 「句集『黎明』を手にして」静薫生
- 4 「近代文学に現はれた恋愛と結婚」宮島新三郎 8日 4回完
- 5 「若狭氏の『トルストイ論』を読む」成田作治 6日完
- 6 「試作詩篇四題」小玉孝一郎
- 7 「秋に佇み」(☆短歌17首) 浮嶋命太
- 14 「晩秋雑詠」遠藤桂風
- 「詩」秋の脚」菅原武一郎
- 「詩壇建設の一考察」井上好澄
- 15 「枯野の香」(☆短歌10首) 鈴木月城
- 17 「冬囲ひ」(☆短歌3首) 宮村てる子
- 26 「伝造の死」(☆短歌4首) 西宮さだ子
- 19 「生活を歌ふ」(☆短歌8首) 加賀谷政子
- 「冬と嚮ふ」(☆短歌23首) 浮嶋命太
- 22 「白樺」大滝重直 25日 4回完
- 26 「大衆文芸の変遷」柴田勝衛
- 「ミリタリキ、マーチ」新田七郎
- 28 「湯の宿」新田七郎
- 「冬は寂し」(☆短歌20首) 浮嶋命太